

安心と信頼、良質なてんかん・神経の包括医療

静岡てんかん・神経医療センター情報誌

令和7年 春・夏 第77号

あかり

A K A R I

新任挨拶	1
当院が主催する てんかん関連の研修セミナーのご紹介	3
療育の新しい取り組み「子育てサロン」	4
新人自己紹介(転入者)	5
新人自己紹介(新採用者)	6
重心病棟 全体行事 ウッドデッキコンサート	6
外来再診の診療体制医療連携室	7
はじめて当院を受診される方へ/当院へのアクセス/本	8

新任挨拶

事務部長 北山 淳一

この度、令和7年4月より事務部長としてまいりました北山と申します。

この地で勤務できることに大変うれしく光栄に思っております。

私は、今から35年程前の平成2年2月に城東町にありました国立静岡病院(現保健所等城東保健福祉エリア)に入職しました。最初の配属は医事課で、診療報酬請求業務や患者さまの窓口対応などを行い、病院職員としての仕事がスタートしました。7年間ほど勤めて、他施設に異動となり静岡の地を去りましたが、その

後、国立静岡病院は当時の国立療養所静岡東病院と平成13年に漆山(現静岡てんかん・神経医療センター)にて統合し、国立療養所静岡神経医療センターとなり、平成16年4月からは、独立行政法人化に伴い国立病院機構静岡てんかん・神経医療センターと改称され現在に至っております。



平成元年頃の国立静岡病院(静岡市城東町)の全景



昭和60年頃の国立静岡病院
(静岡市城東町)の正面

そして、私は今回の異動におきまして、初めて入職した病院に戻ってきたということになり大変うれしく光栄に思っている次第ですが、20年程前に国立静岡病院が取り壊された時は、当時の先輩や同僚、後輩とともに過ごした思い出の詰まった施設が無くなってしまったという寂しさも思い出されました。

入職して以来、35年以上にわたり転勤を繰り返しながら各地の施設、各部署において様々な病院の業務に携わってまいりました。

特に印象深かったことは、病院建物の建設等に携わったことです。困難な課題に直面するこ

とも多々あり、調整などにも走り回っていたことが思い出されますが、多くの職員と協力し、目標を達成できた時の喜びは今でも忘れられません。また、私は、これまでの経験の中で常に「患者様にとって何が最善か」を問い続けてきました。事務部門は直接患者さまと接する機会は少ないかもしれませんが、裏方として医療現場を支え、円滑な病院運営に貢献することで、結果的に患者様へのより良い医療提供に繋がると考えております。

事務部長としては、働きがいのある職場環境の整備に部署間の連携強化や業務効率化を図り、職員が生き生きと明るく働ける職場を目指していきたくと考えています。更には、地域の皆様との連携をより一層強化し、住民の皆様のニーズに応じた医療を提供できるよう努め、広報活動の充実や地域イベントへの参加を通じて、地域に根ざした病院を目指してまいりたいと思います。

静岡てんかん・神経医療センターは、周辺一帯が遊水地として指定され、三方を囲む山々や広大な緑に囲まれた素晴らしい療養環境に恵まれた立地にあります。また「安心と信頼、良質なてんかん・神経の包括医療」を理念として掲げて、てんかんをはじめ、認知症、神経難病、あるいは重度心身障がいなどを抱える患者さまが、これまでどおり安心して適切な医療が受けられるよう、日々努力しております。



現在の静岡てんかん・神経医療センター

私も当院のさらなる発展に貢献できるよう、微力ながら最善を尽くす所存でございます。至らぬ点多々あるかと存じますが、皆様方のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当院が主催するてんかん関連の研修セミナーのご紹介

開催予定日	名 称	主な内容	対 象
令和7年 11月22日	てんかん学研修セミナー ～成人の臨床てんかん学～	成人てんかんの診断から治療のアウトライン、発作症状、脳波や画像の読み方、薬物治療、免疫修飾治療、外科治療、など	医師 レジデント 医学生
令和8年 1月頃	てんかん学研修セミナー ～小児の臨床てんかん学～	小児てんかんの診断から治療のアウトライン、発作症状、脳波や画像の読み方、薬物治療、外科治療、免疫修飾治療、食事療法など	医師 レジデント 医学生
令和7年 10月 23日・24日 (2日間)	てんかん看護セミナー	てんかんの診断と治療（成人、小児）、てんかん看護（成人、外科、小児）、脳波検査、抗てんかん発作薬、リハビリテーション、社会福祉制度、など	看護師
令和7年 8月21日	てんかん専門職セミナー (小児)	“てんかん”という病気のこと、てんかん発作時の対応、てんかん児の保育、リハビリテーション、てんかんをもつ子どもの指導上の留意点、など	てんかんをもつ児童と関わる専門職〔静岡県内に勤務している教育職、福祉職、医療職〕
令和8年 2月頃	てんかん専門職セミナー (成人)	てんかんの基本知識、発作対応、てんかん患者さんの高次脳機能障害、抗てんかん発作薬、など	てんかんをもつ成人と関わる医療・福祉専門職
令和7年 11月27日	脳波検査セミナー	てんかんと脳波検査、外来脳波検査の概要、脳波電極の付け方、てんかん発作と長時間脳波の判読、など	臨床検査技師

* 日程は変更となる場合があります。

詳しい内容や申込み方法は、ホームページをご覧ください。

療育の新しい取り組み「子育てサロン」

療育指導室のてんかん部門では、病棟に入院中のお子さんを対象に「子育てサロン」を始めました。

入院中の検査や治療が続く中で、「思いっきり楽しませたい場が欲しいな」と感じたり、子育ての中で「ちょっと話を聞いて欲しいな」と思うことはありませんか？この子育てサロンではそんな気持ちに寄り添いながら、入院中の子ども達が思いっきり遊び楽しめる時間、ご家族の皆様同士が安心してお話ができる場所を目指しています。

今まで、“ひまわりの植え体験”や“外でシャボン玉大会”、“季節の飾り作り”、“ボーリング大会”等、実施をしてきました。活動内容は様々ですが、どの年齢のお子さん達でも楽しめるように工夫しています。実際に開催していつも感じるのは、子どもたちがのびのびと楽しそうに参加してくれる姿です。そんな様子を見て、私達療育のスタッフも元気をもらったりあたたかい気持ちになりました。

入院での様々な検査や治療を頑張ってきたお子さんやご家族にとっての気分転換の場、入院中の楽しみの1つとしてどうぞお気軽に遊びに来て下さい。

*現在はA4病棟のお子さま対象に実施をしています。



新人自己紹介

転入者

薬剤部長

花満 裕

NHO七尾病院から来ました。当院は専門性の高い施設のため、今まで以上に自己研鑽しなければならないと感じております。

皆様のご協力を得ながら日々過ごしておりますが、精一杯努めていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

副看護部長

池ヶ谷 和美

5年前に4年間看護師長を勤めていました。当時と変わらないところも多々あり、安堵しています。しかし時代や医療は変化しているので、当院としてあるべき姿もしっかり模索し、強味を生かしながら楽しく勤務したいです。

副臨床検査技師長

佐倉 裕二

静岡医療センターから赴任して参りました。

当院には4年ぶり3度目の勤務となります。皆様のお役に少しでも立てるよう頑張っています。どうぞよろしくお願い致します。

RI検査主任

清水 裕也

岐阜から通っています。早起きは苦手ですが、朝型生活になれるように頑張ります。

看護師長

C2病棟を担当します、看護師長の上田です。重症心身障がい児(者)病棟は初めて担当しますが、スタッフと力を合わせ、利用者さまが安全、快適に過ごせるよう支援していきたいと思っています。何卒よろしくお願い致します。

治験管理室 治験主任

細江 慎吾

豊橋医療センターより赴任しました。その前は天竜病院勤務で、ご縁があり静岡で再び勤務することを嬉しく思います。静岡は富士山が綺麗に見え、とても素敵な街だと感じています。治験業務は初めてですが、精一杯頑張ります。

薬剤師

大越 智子

静岡医療センターより4月に転勤して参りました。これまでは急性期の総合病院を経験してきて、3施設目になります。新しい知識の理解を深め職場に早く慣れるよう頑張ります。よろしくお願いします。

栄養管理室

丹野 由梨

三重県より異動してきました。以前、産休代替職員として勤務させていただき、3年ぶりに静岡に戻って来ることができて嬉しく思います。患者さまに寄り添った栄養管理ができるよう努めます。よろしくお願いいたします。

事務部長

北山 淳一

榊原病院より赴任しました。35年前に国立静岡病院に入職し、今回で4回目と静岡県にはとてもご縁があり嬉しく思います。皆様のお役に立てるよう精一杯頑張っていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

企画課長

大場 明彦

長良医療センターより赴任しました。こちらには15年ぶりで久しぶりの勤務となります。早く病院に貢献できるよう頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

経営企画室長

寺田 英生

三重中央医療センターより赴任しました寺田と申します。天竜病院、静岡富士病院に勤務しており、3度目の静岡県となります。富士山が見えるすばらしい環境のもとで勤務できることに感謝し、一日でも早くお役に立てるようがんばります。どうぞ宜しくお願い致します。

業務班長

林田 龍志

4月に業務班長として赴任いたしました林田龍志と申します。こちらの施設への赴任は2回目となります。慣れない業務でご迷惑をお掛けすることの無い様に精一杯努めたいと思います。よろしくお願いします。

庶務係長

宮本 将志

静岡医療センターより参りました宮本と申します。はじめての病院、はじめての業務領域で戸惑うことの多い日々ですが、1日でも早く戦力になれるよう精進して参ります！

新人自己紹介

新採用者

看護師

今年度より重症心身障害児病棟で働くことになりました。今まで経験のない科目であり、新しい看護にチャレンジできることにとてもやりがいを感じています。個性のある看護をたくさん学んでいきたいです。座右の銘は「人生一度きり。今日の自分が一番若い」です。

薬剤師

4月より薬剤師として入職いたしました。日々、てんかんや薬について知識を深めながら、患者さんに寄り添える薬剤師となれるよう精一杯精進して参りたいと思います。よろしくお願いいたします。

算定・病歴係

野村 知世

事務部企画課算定・病歴係に配属になった野村知世です。趣味はパンやお菓子を作ることです。好きな食べ物はアップルパイです。オススメがあれば教えていただけると嬉しいです。早く仕事を覚えられるように精一杯がんばります。これからよろしくお願いいたします！

医師

平松 泰好

北海道から参りました。少しでも多くのことを吸収するため精進して参ります。宜しくお願いいたします

医師

布施川 佑四郎

群馬県から来ました布施川です。趣味は世界遺産について調べ、思いを巡らせることです。少しずつでも成長できるよう頑張ります。よろしくお願いします。

医師

三田 晃裕

愛知県春日井市から移住してまいりました。平成28年川崎医科大学卒、脳神経内科医です。当院での勤務を通じて、てんかん診療を学ぶ機会を頂き大変光栄です。プライベートでは、静岡県のおいしい食事、アクティビティを堪能したいと思います。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

医師

元々、脳の機能に興味があり、てんかん診療にも興味を持ちました。医学的な面はもちろんですが、患者さんの気持ち、生活などにも目を向けて診療をしていきたいです。3か月間という短い期間ですが、よろしくお願いします。

「重心病棟 全体行事 ウッドデッキコンサート」

療育指導室 保育士 石川 知佳

5/21(水)に重症心身障害児病棟の全体行事“ウッドデッキコンサート”を行いました。全体行事は、B・C病棟全体で行う唯一の行事であり、重症心身障害児・者病棟の4病棟が共通の行事に同時に参加し、他病棟患者や職員との交流を図る、同じ空間で同じ時間を過ごすことで楽しさを共有する、重心病棟全体の一体感を感じることを目的としています。



今回の全体行事ではゲストとして静岡市消防音楽隊様をお招きし、ポップスやアニメソング、歌謡曲などを演奏して頂きました。事前活動として、病棟にポスターを貼ったり日中活動で音楽遊びを取り入れたことで、患者さんは「どんな曲を演奏してくれるのかな?」と楽しみにしている様子がみられていました。当日は様々なジャンルの曲の演奏を聴き、知っている歌を口ずさんだり、曲を聴いて笑顔になる姿がみられました。また、演奏の間、体をたくさん動かす方もいました。職員、患者さんとともに大盛り上がりのひと時を過ごすことができました。

今後も様々な行事を企画し患者さんに参加して頂くことで、日常生活の楽しみに繋げていきたいと考えています。



診 療 体 制

てんかん科

午前の診療時間は8:30~12:00 午後の診療時間は13:00~16:30

曜日	初 診					再 診				
診察室	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
第1診察室								川 口		白 井
第2診察室						徳 本	水 谷			
第3診察室	大谷 英之			白井 直敬			西 田			西 田 (AM)
第4診察室							露 崎	日 吉	宮 下	川 口 (AM)
第5診察室							山 崎 悦	矢 部 愛	山 崎悦 (AM)	小 川
第6診察室					松平 敬史	芳 村		松 平	芳 村	
第7診察室			山口 解冬							山 口
第8診察室		今井 克美		今井 克美	今井 克美	今 井		高 橋		
第9診察室		川口 典彦	山崎 悦子			重 松			大 谷	大 谷
第12診察室	西田 拓司		西田 拓司							

脳神経内科

■ 初診

診察室	曜日	月	火	水	木	金
第10診察室	午前	小尾	小尾	小尾		小尾
	午後	小尾 智一	小尾 智一	小尾 智一		小尾 智一
第11診察室	午前	杉浦 初診+再診	杉浦	高嶋		寺田
	午後	杉浦 明 初診+再診		高嶋 浩嗣 初診+再診		尾内 第4週
第5診察室	午前	寺田 達弘 初診+再診				

特 殊 外 来

認知症疾患医療センター	月・水	小尾 智一
睡眠覚醒外来	第3 または 第4金	小栗 卓也

再来診療は予約制です。予約が出来ない場合は午前中にお越しください。

地域医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に行なうために、地域医療連携室を設置しています。ご利用ください。(平日)

T E L ■ 054-246-4580

F A X ■ 054-246-4607

E-mail ■ 307-renkei@mail.hosp.go.jp

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの検査が可能です。共同利用も可能です。
上記、地域医療連携室にお問い合わせください。

応 報 誌 編 集 委 員 会

編集人 ■

西田 拓司	藤田 陽子	石橋 綾子
内野 達宏	佐倉 裕二	上野 智弘
堀 友輔	高橋 輝	鈴木 一彦
宮本 将志		

発 行 ■ 令和7年8月18日

国立病院機構

静岡てんかん・神経医療センター

〒420-8688 静岡市葵区漆山886

T E L ■ 054-245-5446

F A X ■ 054-247-9781

U R L ■ <https://shizuokamind.hosp.go.jp>

E-mail ■ 307-shizuokamind@mail.hosp.go.jp

はじめて当院を受診される方へ

◆診察は予約制になっています◆

1 受診のための手続きは…

予約は、本人・家族は予約センター(054-246-1065)、病院からは地域医療連携室(054-246-4580)。
その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からくわしい書類をお送りいたします。

2 緊急を要する時は…

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしますので、緊急を要する時はその旨をご連絡ください。

3 紹介状について

紹介状がない場合については、令和6年5月31日までは2,750円、令和6年6月1日からは7,700円の別途費用がかかりますのでご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

4 セカンドオピニオンについて

セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

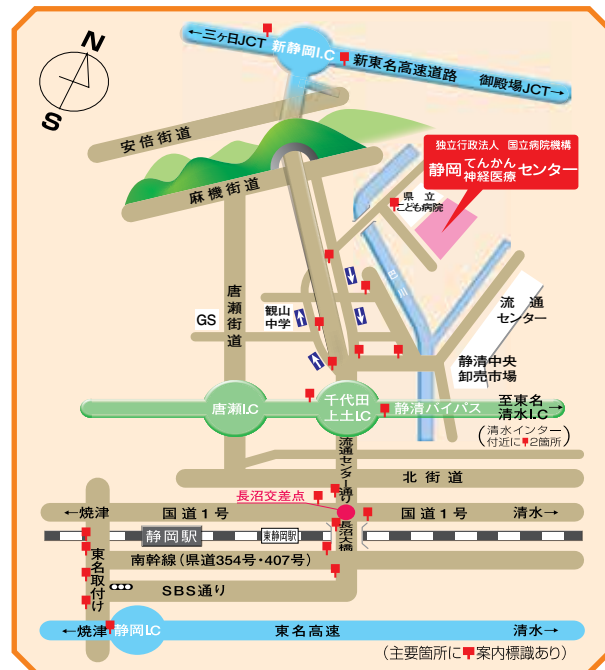
5 静岡市認知症疾患医療センターについて

認知症の受診やご相談は専門医療相談 ☎054-246-4608

当院へのアクセス

access

バスを ご利用の場合	● JR静岡駅前、北口バスターミナル5番線より静岡鉄道バスにて、こども病院線「67 こども病院・神経医療センター」行に乗車、終点の「静岡神経医療センター」で下車。全所要時間は約30分。 片道料金は大人450円、小児230円。
	● JR静岡駅前(北口)より乗車。 所要時間は約20分。料金は2,800円程度。
東京 方面から	● 東名高速清水インターより、静岡バイパスを静岡方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター通りを北へ約3分。所要約20分。
	● 御殿場JCTで新東名高速道路へ乗換。新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。
お車の場合	● 東名高速静岡インターより、国道1号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ約10分。所要約30分。
	● 新東名高速道路・新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。
名古屋 方面から	



本

●抗てんかん薬ポケットブック(改訂第6版)

【日本てんかん協会、2016年】

禁忌、重大な副作用、重大な副作用疾患別症状、体内動態と主な副作用、相互作用、抗てんかん薬プロフィール、新規抗てんかん薬の開発状況、Q & A、識別コード(錠剤のみ)を掲載。

●エキスパートが語る てんかん診療実践ガイド

【日本医事新報社、2022年7月】

静岡てんかん・神経医療センターの専門医が中心となり、てんかんの診断・分類から薬物治療、社会生活のアドバイスまでを体系的に解説。

- ・てんかん発作と間違いやすい症状・疾患との鑑別を丁寧に取り上げ、誤診を防ぐための知識をふんだんに紹介。
- ・薬物治療についても、併存症や副作用、減薬など、判断に迷うことの多い疑問にやさしく回答しました。

●新 小児てんかん診療マニュアル

【診断と治療社、2019年】

多くの読者に支えられ改訂を重ねてきた本書。今回、2017年の新しいILAE てんかん発作分類提案に基づいた小児てんかん診療を可能とするために、ここに「新版」として生まれ変わりました。新規抗てんかん薬だけでなく、新分類で重視される病因別の特徴や心因性非てんかん発作、遺伝子検査、MRSといった新しい画像検査など、てんかん学の進歩をたくさん詰め込みました。

●プライマリ・ケアのための

新規抗てんかん薬マスターブック(改訂第2版)

【診断と治療社、2017年】

「副作用のない治療によるてんかん発作の完全抑制」は、治療を担当する医師および患者さんとそのご家族にとって、切実な願いです。

2006年以降、「新規抗てんかん薬」とよばれる新しい抗てんかん薬が順次発売され、今後しばらく、新規抗てんかん薬の発売が続くと予想されています。本書は、これらの新規抗てんかん薬の使い方をわかりやすく解説したものです。小児と成人に分けて、エビデンスやガイドラインに基づいて、当院のスタッフがわかりやすく執筆しています。当院高橋幸利先生の編集です。

てんかん情報センターのご案内

てんかんに関するさまざまな情報を集積したセンターが外来棟1階にあります。
どうぞご利用ください。次の活動を行っています。

- ① てんかんに関する書籍・雑誌・ビデオなどの閲覧・貸し出し(自己学習)
- ② ホームページによる情報提供 <https://shizuokamind.hosp.go.jp/epilepsy-info/>
- ③ てんかん協会との連携
- ④ 医療などの相談(予定)